

メッセージアウトライン

ヨハネ21：20~25 「わたしに従いなさい」

「ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た」(20) この「イエスが愛された弟子」とはヨハネのことである。ヨハネはこの福音書では謙遜に自分をこのように表現し、ほとんど自分の名前を出していない。「主よ。この人はどうですか」(21) ペテロも自分のことの次は他人のことが気になったのであろう。

「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたはわたしに従いなさい」(22) イエスはペテロにヨハネの将来のことを教えられなかった。そうではなく、「あなたはわたしに従いなさい」と言われたのである。他人の将来を詮索するのではなく、イエスとの個人的な関係、神との関係の強調であった。これは他のクリスチャンのことなどかまうな、放っておけと言われたのではない。そうではなく、各人が信仰を持ってイエス・キリストに従う、神に従うことに熱心でそれを第一にしていくならば一人一人が自分を愛するように他の人々を愛し、キリストのからだの部分としてその持ち味を発揮して、結果としてお互いに助け合い励まし合いが生まれ、主にある兄弟姉妹への尊敬と愛、聖徒の交わりと教会の一体感が本当の意味で生まれてくるのである。→ I コリント12:14~21, ロマ12:3~8

自分は何もできないと思っはならない。忠実に主を信じ、教会に集い続けていること自体がすばらしいあかしであり、賜物なのである。

「そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った」(23) 場所はガリラヤ湖の岸辺であり、他の弟子たちもこのイエスの話を聞いていただろう。彼らはイエスの話を誤解して、ヨハネは死なない、主の再臨が来る時まで生きのびるとうわさして、それがいつの間にかすべての教会中に広がってしまったのである。ヨハネが福音書にこの記事を入れたのもこのような誤解を解くためであった。彼は他の使徒たちよりも長生きしたが、やはり一世紀の末にはエペソで地上の生涯を終わっている。イエスが言われたのは、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても…」とあくまでも仮の話である。私たちもイエスのことば、聖書のことばを誤って解釈しないように、よくよく気をつけていなければならない。「これらのこと」(24)とは単に21章 だけでなく、このヨハネの福音書全体を指す。「私たち」とはヨハネの弟子、あるいは同労者のことであろう。彼らもここでヨハネのあかしが真実であるということを認めヨハネと共にあかししているのである。「イエスが行なわれたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う」(25) これはユダヤ流の誇張した表現である。ヨハネはこのようにしてイエスの行われたわざと恵みがどんなに偉大であるかということをお教え、賛美しているのである。

私たちもペテロのように他の人々のことや遠くの出来事を詮索するのではなく、イエス・キリストと自分との関係を密にして、従い続け、それぞれに与えられている賜物、能力を用いて召しに忠実に応え、そのようにして神の栄光を現す美しい教会を形づくっていききたい。→エペソ2:19~22, 4:16